

地球研国際シンポジウム

	テーマ	開催日	場所
第1回	水と人間生活	2006年11月 6日 - 8日	国立京都国際会館
第2回	緑のアジア —— その過去、現在、未来	2007年10月30日 - 31日	メルパルク京都
第3回	鳥の未来可能性：固有性と脆弱性を越えて	2008年10月22日 - 23日	地球研講演室
第4回	境界のジレンマ —— 新しい流域概念の構築に向けて	2009年10月20日 - 22日	地球研講演室
第5回	多様性の過去と未来	2010年10月13日 - 15日	地球研講演室
第6回	人間社会の未来可能性	2011年10月26日 - 28日	地球研講演室
第7回	複雑化・単純化するアジア 生態系、ひとの健康と暮らし	2012年10月24日 - 26日	地球研講演室

地球研フォーラム

場所：国立京都国際会館

	テーマ	開催日
第1回	地球環境学の課題 —— 統合理解への道	2002年 5月17日
第2回	地球温暖化 —— 自然と文化	2003年 6月13日
第3回	もし生き物が減っていくと —— 生物多様性をどう考える	2004年 7月10日
第4回	断ち切られる水	2005年 7月 9日
第5回	森は誰のものか？ —— 森と人間の共生を求めて	2006年 7月 8日
第6回	地球環境問題としての「食」	2007年 7月 7日
第7回	もうひとつの地球環境問題 —— 会うことのない人たちとともに	2008年 7月 5日
第8回	よく生きるための環境 —— エコヘルスをデザインする	2009年 7月 5日
第9回	私たちの暮らしのなかの生物多様性	2010年 7月10日
第10回	足もとの水を見つめなおす	2011年 7月 3日
第11回	“つながり”を創る	2012年 7月 8日

地球研市民セミナー

	テーマ	開催日	講演者
第1回	シルクロード地域のロマンと現実	2004年11月 5日	中尾 正義 (地球研教授)
第2回	琵琶湖の水環境を守るには —— 琵琶湖流域での研究活動から	2004年12月 3日	谷内 茂雄 (地球研助教授) 中野 孝教 (地球研教授)
第3回	亜熱帯の島・西表の自然と暮らし	2005年 2月 4日	高相徳志郎 (地球研教授) ほか
第4回	21世紀をむかえた世界の水問題	2005年 3月 4日	鼎 信次郎 (地球研助教授)
第5回	地球温暖化、ホント？ ウソ？	2005年 4月 1日	早坂 忠裕 (地球研教授)
第6回	地球温暖化と地域の暮らし・環境 —— トルコの水と農から	2005年 6月 3日	渡邊 紹裕 (地球研教授) ほか
第7回	鴨川と黄河 —— その災いと恵み	2005年 9月 2日	福嵩 義宏 (地球研教授)
第8回	東南アジアの魚と食	2005年10月 7日	秋道 智彌 (地球研教授)
第9回	生き物の豊かな森は持続的な社会に必要である	2005年12月 2日	中静 透 (地球研教授)
第10回	環境の物語り論 —— 環境の質と環境意識	2006年 2月 3日	吉岡 崇仁 (地球研助教授)
第11回	アムール川・オホーツク海・知床 —— 巨大魚付林という考え	2006年 3月 3日	白岩 孝行 (地球研助教授)
第12回	モンスーンアジアからシルクロードへ —— ユーラシア環境史事始	2006年 4月14日	佐藤洋一郎 (地球研教授)
第13回	どうなる日本の自然？ どうなる日本の国土？	2006年 6月 9日	湯本 貴和 (地球研教授)
第14回	なぜインダス文明は崩壊したのか	2006年 9月22日	長田 俊樹 (地球研教授)
第15回	大地の下の“地球環境問題”	2006年10月20日	谷口 真人 (地球研助教授)
第16回	「景観」は生きている	2006年12月 1日	内山 純蔵 (地球研助教授)
第17回	病気もいろいろ —— 人の医者、環境の医者	2007年 3月 9日	川端善一郎 (地球研教授) 奥宮 清人 (地球研助教授)
第18回	シルクロード —— 人と自然のせめぎあい	2007年 4月20日	窪田 順平 (地球研准教授)
第19回	途上国農村のレジリエンスを考える	2007年 5月25日	梅津千恵子 (地球研准教授)
第20回	鎮守の森は原始の照葉樹林の生き残りか？	2007年 9月21日	小椋 純一 (京都精華大学教授) 湯本 貴和 (地球研教授)
第21回	京都の世界遺産 —— 上賀茂の杜からのメッセージ	2007年10月12日	村松 晃男 (上賀茂神社権禰宜) 秋道 智彌 (地球研副所長・教授)
第22回	生きものにとって自然の森だけが大切なのか？ —— 熱帯と温帯の里山	2007年11月 9日	阿部 健一 (京都大学地域研究統合情報センター准教授) 市川 昌広 (地球研准教授)
第23回	地域・地球の環境 —— 市民の役割・研究者の責任	2008年 2月15日	石田 紀郎 (京都学園大学教授) 渡邊 紹裕 (地球研教授)
第24回	黄河と華北平原の歴史	2008年 3月14日	木下 鉄矢 (地球研教授) 福嵩 義宏 (地球研教授)
第25回	マレーシア熱帯林とモンゴル草原の大自然と環境破壊	2008年 4月18日	酒井 章子 (地球研准教授) 藤田 昇 (京大大学生態学研究センター助教)
第26回	地球環境の変化と健康 —— 人びとのライフスタイルを変えるには	2008年 5月16日	山村 則男 (地球研教授) 門司 和彦 (地球研教授) 奥宮 清人 (地球研准教授)

	テーマ	開催日	講演者
第 27 回	捕鯨論争 —— 21 世紀における人間と野生生物の関わりを考える	2008 年 9 月 19 日	星川 淳 (NPO 法人グリーンピース・ジャパン事務局長) 秋道 智彌 (地球研副所長・教授)
第 28 回	年輪年代学 —— 過去から未来へ	2008 年 10 月 17 日	光谷 拓実 (地球研客員教授) 佐藤洋一郎 (地球研副所長・教授)
第 29 回	厳寒のシベリアに暮らす人々と温暖化	2008 年 11 月 21 日	井上 元 (地球研教授) 高倉 浩樹 (東北大学東北アジア研究センター准教授)
第 30 回	里山・里海から SATOYAMA SATOUMI へ	2009 年 1 月 23 日	あん・まくどなど (国連大学高等研究所いしかわ・かなざわオペレーティング・ユニット所長) 阿部 健一 (地球研教授)
第 31 回	南極から地球環境がよく見える	2009 年 3 月 13 日	中尾 正義 (人間文化研究機構理事) 斎藤 清明 (地球研教授)
第 32 回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか？	2009 年 4 月 17 日	嶋田 義仁 (名古屋大学大学院文学研究科教授) 縄田 浩志 (地球研准教授)
第 33 回	世界の水、日本の水 —— 21 世紀の日本の役割	2009 年 6 月 19 日	竹村公太郎 (日本水フォーラム事務局長・財団法人リバーフロント整備センター理事長) 渡邊 紹裕 (地球研教授)
第 34 回	万物共存の哲学 —— 環境思想としての朱子学	2009 年 9 月 11 日	木下 鉄矢 (地球研教授) 鞍田 崇 (地球研プロジェクト上級研究員)
第 35 回	中国の環境問題 —— 国際的民間協力の役割と可能性	2009 年 10 月 16 日	高見 邦雄 (認定 NPO 法人緑の地球ネットワーク事務局長) 窪田 順平 (地球研准教授)
第 36 回	現代インドの経済発展と環境問題	2009 年 12 月 18 日	ヴィカース・スワループ (駐大阪神戸インド総領事) 長田 俊樹 (地球研教授)
第 37 回	地球温暖化と水	2010 年 2 月 16 日	真鍋 淑郎 (プリンストン大学大気海洋研究プログラム上級研究員) 阿部 健一 (地球研教授)
第 38 回	キョウト遺産 VS. シンヤ遺産 —— まちの力を未来につなげる	2010 年 4 月 16 日	中川 理 (京都工芸繊維大学教授) 村松 伸 (地球研教授)
第 39 回	ねんてんさんに訊く“俳句と環境問題”	2010 年 6 月 18 日	坪内 稔典 (佛光大学教授) 阿部 健一 (地球研教授)
第 40 回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか？ —— その 2	2010 年 9 月 17 日	鷹木 恵子 (桜美林大学教授) 石山 俊 (地球研プロジェクト研究員)
第 41 回	神話から学ぶ人間と自然とのありかた —— ポプ・サムさんによるストーリー・テリング	2010 年 11 月 30 日	ポップ・サム (アラスカ・クリンギット族) 羽生 淳子 (地球研招へい研究員/カリフォルニア大学バークリー校准教授)
第 42 回	水保に学ぶ —— 公害から地球環境問題へ	2011 年 2 月 15 日	原田 正純 (元熊本学園大学教授) 門司 和彦 (地球研教授) 阿部 健一 (地球研教授)
第 43 回	東日本大震災 —— 被災者主体の復興への道筋	2011 年 5 月 19 日	室崎 益輝 (関西学院大学災害復興制度研究所所長) 窪田 順平 (地球研准教授)
第 44 回	地球環境学へのいざない —— 研究の裏舞台	2011 年 8 月 5 日	谷口 真人 (地球研教授) 渡邊三津子 (地球研プロジェクト研究員) 槇林 啓介 (地球研プロジェクト上級研究員)
第 45 回	石油資源がなくなったとき、どうやって生活していきますか？ —— その 3	2011 年 9 月 9 日	大沼 洋康 (国際耕種株式会社代表取締役) 中西 昭雄 (中西木材株式会社代表取締役) 縄田 浩志 (地球研准教授) 石山 俊 (地球研プロジェクト研究員)
第 46 回	新しいインダス文明像を求めて	2012 年 5 月 11 日	前杵 英明 (広島大学教授) 長田 俊樹 (地球研教授)
第 47 回	東南アジアの環境破壊と食卓のゆくえ	2012 年 6 月 22 日	嘉田 良平 (地球研教授) 鞍田 崇 (地球研特任准教授)
第 48 回	遠い世界に思いをはせる —— アフリカでの開発支援をめぐる	2013 年 1 月 18 日	田中 樹 (地球研准教授)
第 49 回	参加体験型セミナー 自分という自然を生きる	2013 年 2 月 15 日	中野 民夫 (ワークショップ企画プロデューサー・同志社大学教授)

地球研キッズセミナー

	テーマ	開催日	講演者
第1回	恐竜はいきている！ カエルは人間のご先祖さま？ 絶滅した生き物とわたしたち	2010年 8月23日	富田 京一（肉食爬虫類研究所代表） 縄田 浩志（地球研准教授）
第2回	熱帯雨林の不思議な生き物たち	2011年 8月 5日	湯本 貴和（地球研教授）
第3回	「アルペド」って何だろう？	2012年 8月 3日	檜山 哲哉（地球研准教授）

地球研オープンハウス

	開催日	場 所
2011年度 地球研オープンハウス	2011年 8月 5日	地球研
2012年度 地球研オープンハウス	2012年 8月 3日	地球研

地球研地域連携セミナー

	テーマ	開催日	場 所
第1回	雪と人 ——くらしをささえる日本海	2005年 9月17日	富山県富山市
第2回	火山と水と食：鹿児島を語る！	2006年 9月18日	鹿児島県鹿児島市
第3回	伊豆の、花と海。 ——伊東から考える地球環境	2007年 9月15日	静岡県伊東市
第4回	災害と「しのぎの技」——池島・福万寺遺跡が語る農業と環境の関係史	2008年11月 8日	大阪府和泉市
第5回	やんばるに生きる ——自然・文化・景観のゆたかさを育む地域と観光	2009年 2月13日 2009年 2月14日	沖縄県名護市 沖縄県国頭村
第6回	山・ひと・自然 ——厳しい自然を豊かに生きる	2009年11月28日	長野県松本市
第7回	にほんの里から世界の里へ	2010年 2月 6日	石川県金沢市
第8回	多様性の伝えかた ——子どもたちのための自然と文化	2010年10月10日	愛知県名古屋
第9回	ユーラシアへのまなざし：ソ連崩壊 20年後の環境問題	2011年 6月12日	北海道札幌市
第10回	水辺の保全と琵琶湖の未来可能性	2012年 1月14日	滋賀県大津市
第11回	東アジアの「環境」安全保障：風上・風下論を超えて	2012年 6月10日	福岡県福岡市
第12回	分かちあう豊かさ：地域のなかのコモンズ	2012年10月13日	山梨県富士吉田市

地球研東京セミナー

	テーマ	開催日	場 所
第1回	人・水・地球 ——未来への提言	2009年10月 9日	霞山会館
第2回	(人間文化研究機構第13回公開講演会・シンポジウム) 食：生物多様性と文化多様性の接点	2010年 7月16日	有楽町朝日ホール
第3回	(人間文化研究機構第17回公開講演会・シンポジウム) 遠い森林、近い森：関係性を問う	2011年10月 7日	国立京都国際会館
第4回	(人間文化研究機構第20回公開講演会・シンポジウム) コモンズ：豊かさのために分かちあう	2013年 1月25日	有楽町朝日ホール

日文研・地球研合同シンポジウム

	テーマ	開催日	場 所
第1回	山川草木の思想 ——地球環境問題を日本文化から考える	2008年 6月21日	シルクホール
第2回	京都の文化と環境 ——水と暮らし	2009年 5月 9日	日文研講堂
第3回	京都の文化と環境 ——森や林	2010年 5月22日	日文研講堂
第4回	環境問題はなぜ大事か ——文化から見た環境と環境から見た文化	2011年 5月21日	日文研講堂
第5回	文化・環境は誰のもの？	2012年 9月14日	日文研講堂

KYOTO 地球環境の殿堂

	殿堂入り者	称号・職位など	業 績
第1回	グロ・ハルレム・ブルントラント氏	元ノルウェー首相	「持続可能な開発」概念を世界に提唱
	真鍋 淑郎氏	プリンストン大学上級研究員	気候変動を新たなモデルで分析し、地球科学分野で活躍
	ワンガリ・マータイ氏	2004年ノーベル平和賞受賞者	「もったいない」を環境のキーワードとして世界に広める
第2回	シグミ・シンゲ・ワンチュク陛下	ブータン王国第4代国王	「国民総幸福度」(Gross National Happiness:GNH) の概念を提唱
	原田 正純氏	元熊本学園大学教授	水俣病をはじめとした公害問題の社会医学的な研究
第3回	エリノア・オストロム氏	2009年ノーベル経済学賞受賞者	コモンズ（共有資源）の理論的・実証的な研究
	クラウス・テプファー氏	先端的持続可能性研究所所長	UNEP（国連環境計画）の事務局長として、地球環境保全の具体的な施策を推進した
	レスター・R・ブラウン氏	アースポリシー研究所所長	エネルギーや人口・食料問題などに警鐘を鳴らし、地球環境問題の思想を普及させた
第4回	ヴァンダナ・シヴァ氏	環境哲学者・物理学者	伝統的スタイルに根ざした価値観や社会構成の重要性など、環境と共生する思想の普及に貢献した
	エイモリー・B・ロビンズ氏	ロッキーマウンテン研究所理事長	エネルギー利用に関する学術研究の成果をもとにした先進的な戦略「ソフトエネルギー・パス」を提唱した

既刊刊行物

地球研叢書

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
生物多様性はなぜ大切か？	日高 敏隆 編	昭和堂	2005年 4月
中国の環境政策 生態移民 —— 緑の大地、内モンゴルの砂漠化を防げるか？	小長谷有紀、シンジルト、中尾 正義 編	昭和堂	2005年 7月
シルクロードの水と緑はどこへ消えたか？	日高 敏隆、中尾 正義 編	昭和堂	2006年 3月
森はだれのものか？ —— アジアの森と人の未来	日高 敏隆、秋道 智彌 編	昭和堂	2007年 3月
黄河断流 —— 中国巨大河川をめぐる水と環境問題	福嶋 義宏 著	昭和堂	2008年 1月
地球の処方箋 —— 環境問題の根源に迫る	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2008年 3月
食卓から地球環境がみえる —— 食と農の持続可能性	湯本 貴和 編	昭和堂	2008年 3月
地球温暖化と農業 —— 地域の食料生産はどうなるのか？	渡邊 紹裕 編	昭和堂	2008年 3月
水と人の未来可能性 —— しのびよる水危機	総合地球環境学研究所 編	昭和堂	2009年 3月
モノの越境と地球環境問題 —— グローバル化時代の〈知産知消〉	窪田 順平 編	昭和堂	2009年10月
安定同位体というメガネ —— 人と環境のつながりを診る	和田英太郎、神松 幸弘 編	昭和堂	2010年 3月
魚附林の地球環境学 —— 親潮・オホーツク海を育むアムール川	白岩 孝行 著	昭和堂	2011年 3月
生物多様性 どう生かすか —— 保全・利用・分配を考える	山村 則男 編	昭和堂	2011年10月
食と農の未来 —— ユーラシア一万年の旅	佐藤洋一郎 著	昭和堂	2012年 3月
生物多様性 子どもたちにどう伝えるか？	阿部 健一 編	昭和堂	2012年10月
ポスト石油時代の人づくり・モノづくり —— 日本と産油国の未来像を求めて	石山 俊、縄田 浩志 編	昭和堂	2013年 3月

地球研英文叢書

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
Island Futures	BALDACCHINO, Godfrey・NILES, Daniel 編	Springer	2011年 7月
The Dilemma of Boundaries	谷口 真人、白岩 孝行 編	Springer	2012年 5月

地球研ライブラリー

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
クスノキと日本人 —— 知られざる古代巨樹信仰	佐藤洋一郎 著	八坂書房	2004年10月
世界遺産をシカが喰う —— シカと森の生態学	湯本 貴和、松田 裕之 編	文一総合出版	2006年 3月
ヒマラヤと地球温暖化 —— 消えゆく氷河	中尾 正義 編	昭和堂	2007年 3月
Indus Civilization: Text and Context	長田 俊樹 編	Manohar	2007年 3月
人はなぜ花を愛でるのか	日高 敏隆、白幡洋三郎 編	八坂書房	2007年 3月
農耕起源の人類史	ピーター・バルウッド 著 長田 俊樹、佐藤洋一郎 監訳	京都大学 学術出版会	2008年 7月
モンsoon農耕圏の人びとと植物 (ユーラシア農耕史1)	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2008年12月
日本人と米 (ユーラシア農耕史2)	佐藤洋一郎 監修 木村 栄美 編	臨川書店	2009年 3月
砂漠・牧場の農耕と風土 (ユーラシア農耕史3)	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2009年 6月
Indus Civilization: Text and Context Vol.2	長田 俊樹 編	Manohar	2009年 9月
Linguistics, Archaeology and Human Past in South Asia	長田 俊樹 編	Manohar	2009年 9月
さまざまな栽培植物と農耕文化 (ユーラシア農耕史4)	佐藤洋一郎 監修 木村 栄美 編	臨川書店	2009年10月
農耕の変遷と環境問題 (ユーラシア農耕史5)	佐藤洋一郎 監修 鞍田 崇 編	臨川書店	2010年 1月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 1	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 2	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 3	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2010年 8月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 4	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 5	DANGI, Vivek 著	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 6	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 7	長田 俊樹、上杉 彰紀 編	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 8 Part 1	LAW, Randall William 著	Manohar	2011年 7月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 8 Part 2	LAW, Randall William 著	Manohar	2011年 7月
焼畑の環境学 —— いま焼畑とは	佐藤洋一郎 監修 原田 信男、鞍田 崇 編	思文閣出版	2011年 9月
Current Studies on the Indus Civilization Vol. 9	長田 俊樹、遠藤 仁 編	Manohar	2012年 2月
危機言語 —— 言語の消滅でわれわれは何を失うのか	EVANS, Nicholas 著	京都大学 学術出版会	2013年 2月

その他

タイトル	著者・編者	出版社	出版年月
地球環境学事典	総合地球環境学研究所 編	弘文堂	2010年10月

■沿革

1995
(平成7年)

- 4月 ● 「地球環境科学の推進について」(学術審議会建議)
「地球環境問題の解決を目指す総合的な共同研究を推進する中核的研究機関を設立することを検討する必要がある。」
- 7月 ● 文部省、学術審議会建議を受け「地球環境科学の研究組織体制の在り方に関する調査研究会」を設置

1997
(平成9年)

- 3月 ● 「地球環境科学に関する中核的研究機関のあり方に関する研究報告書」(地球環境科学の中核的研究機関に関する調査研究会)
- 6月 ● 「地球環境保全に関する当面の取組」(地球環境保全に関する関係関係会議)
「幅広い学問分野の研究者が地球環境問題について、総合的に研究を行うことができるよう、地球環境科学の研究組織体制の整備に関する調査研究を行う。」

1998
(平成10年)

- 4月 ● 地球環境科学研究所(仮称)の準備調査を開始

2000
(平成12年)

- 3月 ● 地球環境科学研究所(仮称)準備調査委員会、人文・社会科学から自然科学にわたる学問分野を総合化し、国内外の大学、研究機関とネットワークを結び、総合的な研究プロジェクトを推進するための「総合地球環境学研究所(仮称)」の創設を提言
- 4月 ● 総合地球環境学研究所(仮称)創設調査室を設置するとともに創設調査機関に創設調査委員会を設置

2001
(平成13年)

- 2月 ● 「総合地球環境学研究所(仮称)の構想について」(最終報告)(創設調査委員会)
- 4月 ● 総合地球環境学研究所の創設
国立学校設置法施行令の一部を改正する政令(平成13年政令第151号)の施行にともない、総合地球環境学研究所を創設し、京都大学構内において研究活動を開始。初代所長に日高敏隆が就任

2002
(平成14年)

- 4月 ● 旧京都市立春日小学校(京都市上京区)へ移転

2004
(平成16年)

- 4月 ● 大学共同利用機関の法人化にともない、「大学共同利用機関法人 人間文化研究機構」に所属

2005
(平成17年)

- 12月 ● 新施設(京都市北区上賀茂本山)竣工

2006
(平成18年)

- 2月 ● 旧春日小学校より新施設(京都市北区上賀茂本山)へ移転
- 5月 ● 総合地球環境学研究所施設竣工記念式典を実施

2007
(平成19年)

- 4月 ● 立本成文が第二代所長に就任
- 5月 ● 副所長を設置
- 10月 ● 研究推進センターを研究推進戦略センターに改組

2011
(平成23年)

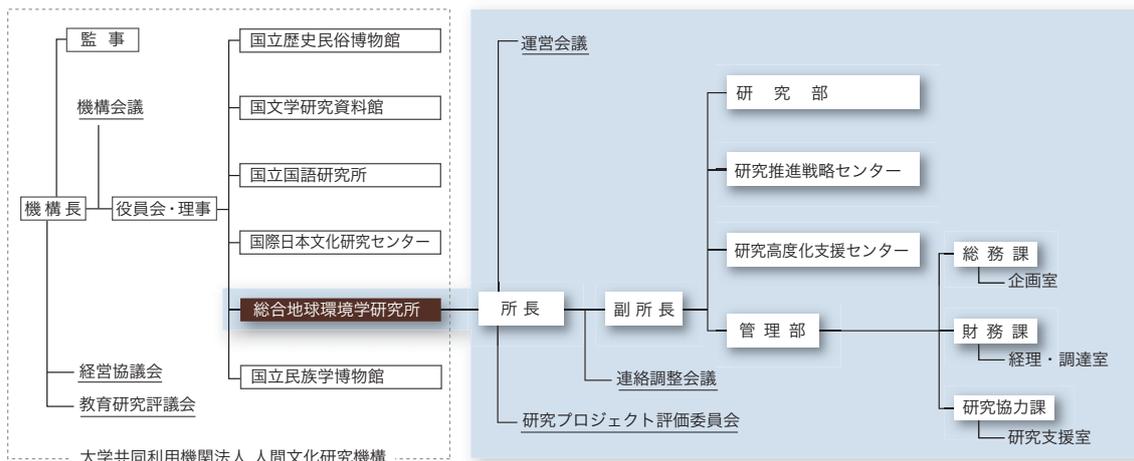
- 4月 ● 創立10周年記念シンポジウムを開催

2013
(平成25年)

- 4月 ● 安成哲三が第三代所長に就任
- 4月 ● 研究推進戦略センターを研究推進戦略センターと研究高度化支援センターに改組



■ 組織図



■ 財務セグメント情報 (2011年度)

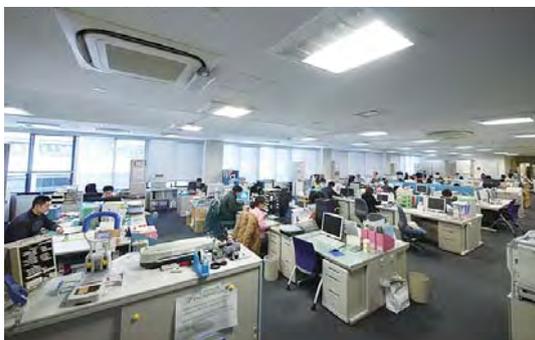
業務費用	
種別	金額 (千円)
業務費	2,052,338
共同利用・共同研究経費	963,206
教育研究支援経費	93,927
受託研究費	53,712
人件費	941,491
一般管理費	139,805
財務費用	53,309
費用計	2,245,452
業務損益	

業務収益	
種別	金額 (千円)
運営費交付金収益	2,020,492
受託研究等収益	64,396
寄附金収益	16,345
その他	169,234
収益計	2,270,469
	25,016

■ 外部資金等受入額 (2011年度)

区分	金額 (千円)
産学連携等研究費	65,413
科学研究費補助金	70,700
寄附金	7,430

※産学連携等研究費は、受託研究および共同研究経費を合算したものです



現在の管理部



現在の研究部

■ 運営組織と役割

■ 運営会議 研究所の人事、事業計画、その他管理運営に関する重要事項について審議します。

大槻 恭一 九州大学大学院農学研究院教授	嘉田 良平 総合地球環境学研究所研究部教授
川井 秀一 京都大学大学院総合生存学館（思修館）館長	窪田 順平 総合地球環境学研究所プログラム主幹・研究推進戦略センター長
小長谷有紀 国立民族学博物館民族社会研究部教授	佐藤 哲 総合地球環境学研究所プログラム主幹
藤岡 一郎 京都産業大学長	佐藤洋一郎 総合地球環境学研究所副所長・プログラム主幹
古澤 巖 鳥取環境大学長	谷口 真人 総合地球環境学研究所プログラム主幹
鷺谷いづみ 東京大学大学院農学生命科学研究科教授	中野 孝教 総合地球環境学研究所研究高度化支援センター長
鷺田 清一 大谷大学文学部哲学科教授	

■ 研究プロジェクト評価委員会 研究所の研究プロジェクトに関し、必要な事項を専門的に調査審議します。

(国内委員)	(海外委員)
植田 和弘 京都大学大学院経済学研究科長	BELLWOOD, Peter Professor, School of Archaeology and Anthropology, The Australian National University, AUSTRALIA
山形 俊男 独立行政法人海洋研究開発機構アプリケーションラボ所長・東京大学名誉教授	FU, Congbin Director, Institute for Climate and Global Change Research, School of Atmospheric Science, Nanjing University, CHINA
横山 俊夫 滋賀大学副学長	LOVEJOY, Thomas E. President, The H. John Heinz III Center for Science, Economics and the Environment, USA
中村 雅美 江戸川大学情報文化学科教授 (前日本経済新聞社編集委員)	CHUN Kyung-soo Professor, Department of Anthropology, Seoul National University, KOREA
小池 勲夫 琉球大学監事・東京大学名誉教授	MCDONALD, Anne Professor, Graduate School of Global Environmental Studies, Sophia University, JAPAN
中西 久枝 同志社大学グローバル・スタディーズ研究科教授	RANDALL, Roland Life Fellow, Girton College, University of Cambridge, UK
安岡 善文 情報・システム研究機構監事	SCHOLZ, Roland Professor Emeritus, Natural and Social Science Interface, Institute for Environmental Decisions, Swiss Federal Institute of Technology Zurich, SWITZERLAND
鷺田 清一 大谷大学文学部哲学科教授	

■ 連絡調整会議 研究所の円滑な運営を図るため、研究所の管理運営に関する重要事項を審議します。

安成 哲三 所長	佐藤 哲 プログラム主幹	中野 孝教 研究高度化支援センター長
佐藤洋一郎 副所長・プログラム主幹	谷口 真人 プログラム主幹	井深 順二 管理部長
窪田 順平 プログラム主幹・研究推進戦略センター長		

■ 顧問

立本 成文

■ 名誉教授 (称号授与年月日)

中西 正己 (2003年4月1日)	福嶋 義宏 (2008年4月1日)
和田英太郎 (2004年8月1日)	秋道 智彌 (2012年4月1日)
日高 敏隆 (2007年4月1日) (故人)	川端善一郎 (2012年4月1日)
中尾 正義 (2008年4月1日)	長田 俊樹 (2012年10月1日)

■ 所員

■ 所長 安成 哲三 ■ 副所長 佐藤洋一郎

管理部 ■ 部長 井深 順二

■ 総務課		■ 財務課		■ 研究協力課	
課長	岩阪 豊	課長	吉田 隆	課長	番場 葉一
課長補佐	泉森 嘉宏	課長補佐	藤原 浩一	研究協力係 係長	新野 正人
総務係	係長 植村 博樹 主任 原 彰子	財務企画係 係長	山形 哲史	係員	小木曾彩菜
人事係	係長 住田 会美 係員 貴田 佳実 係員 田中 美佳	施設管理係 係長	梅上 竜志	国際交流係 係長	ビゾーネ 純子
企画室	室長 泉森 嘉宏 (併任)	経理・調達室 室長	藤原 浩一 (併任)	研究支援室 室長	番場 葉一 (併任)
企画広報係	係員 中大路 悠 係員 本田 智子	調達係	係長 浴田富美代	研究推進係 主任	銭塚 理恵
		経理係	係長 深尾 秀正	係員	辻 はな子
				研究支援係 係長	山本 浩司

研究部

■プログラム主幹 窪田 順平 (併任) 佐藤 哲 (併任) 佐藤洋一郎 (併任) 谷口 真人 (併任)	■客員准教授 石川 守 (地理学) 内山 純蔵 (環境考古学・景観論) 奥田 昇 (生態学) 木下 裕介 (シナリオ設計) 白岩 孝行 (雪氷学)	R-07 石本 雄大 (生態人類学) R-07 遠藤 仁 (考古学) R-07 佐々木夕子 (村落開発学) R-07 清水 貴夫 (文化人類学) R-07 手代木功基 (自然地理学) R-07 宮崎 英寿 (境界農学) E-05 石原 広恵 (環境社会学・経済学) E-05 竹村 紫苑 (景観生態学) E-05 中川 千草 (環境社会学)
■教授 嘉田 良平 (農政学・環境経済学) 窪田 順平 (兼務) 佐藤 哲 (地球環境学・保全生態学) 谷口 真人 (水文学) 村松 伸 (建築史・都市史) 門司 和彦 (人類生態学)	■招へい外国人研究員 GALVEZ TAN, Jaime (公衆衛生学) HENNY, Cynthia (環境科学・工学) RANOLA, Roberto Jr. Dela Fuente (資源経済学) SETIAWAN, Budi Indra (土壌物理学・水文学)	■プロジェクト研究推進支援員 C-07 清水 宏美 C-09 加藤 久明 C-09 小山 雅美 R-05 王 娜 R-05 岡本 洋子 R-05 HAFIZ KOURA, Hafiz Mohamed Fathy R-05 水真 咲子 R-06 岡本 高子 R-06 津和 冨香 R-06 宮川 千絵 R-07 紀平 朋 E-05 福嶋 敦子
■准教授 石川 智士 (保全生態学・国際水産開発学) 奥宮 清人 (フィールド医学) 菊地 直樹 (環境社会学) 田中 樹 (境界農学) 縄田 浩志 (文化人類学) 檜山 哲哉 (生態水文学)	■プロジェクト上級研究員 C-07 酒井 徹 (衛星生態学) C-07 藤原 潤子 (文化人類学) D-05 高木 映 (水産学・分子生態学) R-06 増田 忠義 (農業資源経済学)	
■客員教授 有馬 眞 (岩石学) 内堀 基光 (文化人類学) 大西 正幸 (言語学・言語教育) 長田 俊樹 (言語学) 加藤 剛 (比較社会学) 北川 秀樹 (環境法政策) 田中 雅一 (文化人類学) 仲上 健一 (環境経済・政策) 中塚 武 (生物地球化学・古気候学) 羽生 淳子 (環境考古学) 氷見山幸夫 (地理学) 森 壮一 (科学技術政策・持続性社会論) 米本 昌平 (科学史・科学論)	■プロジェクト研究員 C-08 内山 愉太 (建築史・都市史) C-08 林 憲吾 (東南アジア都市史・建築史) C-08 松田 浩子 (東南アジア都市史・建築史) C-08 三村 豊 (建築史・都市史) C-08 MEUTIA, Ami Aminah (水文学) C-09 今川 智絵 (地域環境科学) C-09 橋本 (渡部) 慧子 (地域環境科学) C-09 濱崎 宏則 (政策科学) D-05 岡本 侑樹 (システム農学) D-05 YAP, Minlee (サンゴ礁生態学) D-05 渡辺 一生 (地域研究) R-04 蔣 宏伟 (人類生態学) R-05 石山 俊 (文化人類学) R-05 市川光太郎 (生物音響学) R-05 中村 亮 (文化人類学) R-06 矢尾田清幸 (空間計量経済学・GIS)	

研究推進戦略センター ■センター長 窪田 順平 (併任)

■部門長 基幹研究ハブ部門長 窪田 順平 連携推進部門長 谷口 真人 組織点検・戦略策定部門長 佐藤洋一郎	■特任教授 MALLEE, Hein (社会科学)
■教授 窪田 順平 (森林水文学) 佐藤洋一郎 (植物遺伝学) 佐藤 哲 (兼務) 谷口 真人 (兼務)	■特任准教授 鞍田 崇 (哲学) 半藤 逸樹 (地球システム科学・数理モデリング)
	■特任助教 MCGREEVY, Steven Robert (環境社会学・里山学)
	■地域研究推進センター研究員／中国環境問題研究拠点研究員 福士 山紀 (中国近代史)

研究高度化支援センター ■センター長 中野 孝教 (併任)

■部門長 計測・分析部門長 中野 孝教 情報基盤部門長 関野 樹 コミュニケーション部門長 阿部 健一	■助教 熊澤 輝一 (環境計画論・地域情報学) 申 基澈 (岩石学・地球化学・同位体地質学) NILES, Daniel Ely (地理学) 安富奈津子 (気象・気候学)
■教授 阿部 健一 (相関地域学) 中野 孝教 (同位体地球環境学)	■特任准教授 寺田 匡宏 (歴史学・博物館人類学)
■准教授 関野 樹 (情報学)	■特任助教 内藤 大輔 (東南アジア地域研究・ポリティカルエコロジー) 南 佳孝 (情報学)

地球研では、そこに集うスタッフが絶え間なく議論をくり返し、互いに切磋琢磨できる環境を整備することが肝要であると考えています。このコンセプトは施設の設計に大きく反映されています。

地球研にある研究室は、なだらかに弧を描いた全長 150m の建物にすべての研究プロジェクトが有機的な連携をもつよう開放的に設計されています。内部だけでなく外来のさまざまな研究者が相互に接触できる施設の共同利用性の機能を最優先するように配慮したものとなっています。研究プロジェクトごとの独自性に基づく共同研究を可能にし、しかもそれらを相互に有機的につなぐ空間配置が特徴となっています。建物のほぼ中央には、研究者が共通に利用する図書室や情報処理室を配置するとともに、日常的な議論を行なうためのスペースもあります。また、地階には、機能に応じた実験室がクラスター群として設置され、研究室と同様、共同利用における利便性と連携性を重視した設計となっています。

別棟になっている「地球研ハウス」は、宿泊を主として設備した施設です。ハウス入口左手にあるアセンブリーホールとダイニングサロンは、宿泊者に限ることなく地球研関係者が集う場所としてオープンに使えるようになっています。

また地球研の建物は、地球環境を研究する研究所にふさわしく、京都の景観と違和感のない瓦葺きの建物となっており、施工前にあった樹木もできるだけ生かして工事を行ないました。採光や空調に関しても、環境へのインパクトを抑えるための工夫がなされています。

■施設の概要

敷地面積	31,354m ²
建築面積	6,257m ² (本館：5,610m ² 、地球研ハウス：647m ²)
延べ面積	12,887m ² (本館：11,927m ² 、地球研ハウス：960m ²)
構造	本館：RC造一部S造、地球研ハウス：RC造
階数	本館：地下1階 地上2階、地球研ハウス：地下1階 地上2階

2階 外来レベル

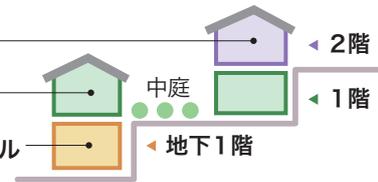
エントランスホール
展示ロビー
講演室
管理部事務室
セミナー室
ダイニングホールなど

1階 研究レベル

プロジェクト研究室
研究推進戦略センター室
研究高度化支援センター室
情報処理室
図書室
人間文化研究機構関西連絡所

地下1階 実験レベル

実験室
書庫
設備室など



地球研本館と地球研ハウス



■ 実験室

地球研の研究プロジェクトは、国内外の各地で自然科学と人文社会科学の研究者が参加して行なわれており、さまざまな研究試料を取り扱っています。どの試料にもたくさんの環境情報が眠っていますが、その情報を取り出し、ほかの試料がもつ情報と一つひとつつなげていくことで、地球環境問題を引き起こしている人間と自然系の相互作用環の姿が明らかになっていきます。地球研の地下1階には、この作用環情報を獲得するために設計された18の実験室があり、安定同位体やDNA分析など共同研究を強力に推進する最先端機器が整備されています。そのほかにも、顕微鏡室、観測や試料採取の機器を保管し調整する野外調査準備室、生物や氷床コアなどの試料を保管する低温室、人工的な環境で生物を育てる培養室、汚染のない環境で試料を処理するクリーンルームなど、さまざまな機能をもつ実験室が整備されています。

機器・装置類

地球研では、各研究プロジェクトが購入して専有的に利用する機器のほか、汎用性が高く新しい地球環境研究への発展が期待される先端的な共通機器を重点的に整備しています。大学共同利用機関として、地球環境問題の解決に資する共同研究を強力に促進するために、研究高度化支援センターの計測・分析部門が中心となって、これら機器類を用いた手法開発を行なう一方で、手法が確立した分析法については手順のマニュアル化を行なっています。地球研では特に、近年さまざまな環境研究に用いられている安定同位体比分析装置を中心に据えつつ、各種分析機器の整備を図っています。実験に共通して利用する消耗品類については、まとめて購入して各研究プロジェクトで常時利用できるようにになっています。

維持管理と共同研究の推進

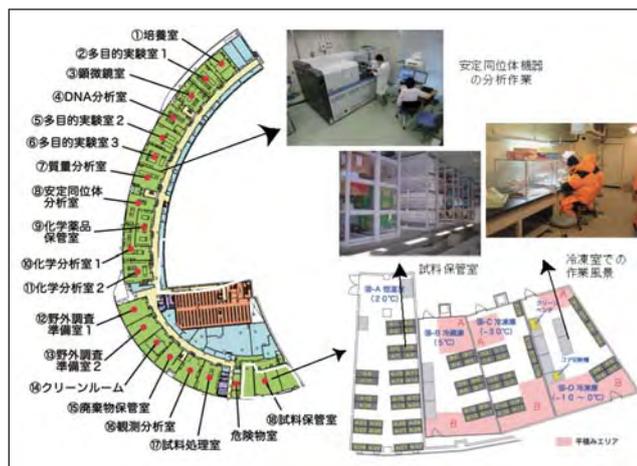
実験施設の維持や管理は、計測・分析部門が中心となり、各研究プロジェクトと協力しながら実施しています。年度ごとに新しい研究プロジェクトが始まるのにあわせ、施設利用のガイダンスを開催するほか、実験施設を実際に利用しているスタッフによる情報交換を年に数回行なっています。実験室や機器、保管試料、施設利用などの情報は、実験施設のホームページで閲覧できます。総合地球環境学という新しい分野の創出に向けて、施設と機器の利用を促進し、異分野研究者の協働と統合による共同研究を推進しています。



質量分析室での作業風景



クリーンルームにおける作業風景



実験施設のホームページをととした利用者への情報提供

交通案内

大学共同利用機関法人 人間文化研究機構
総合地球環境学研究所



地球研正門前に標識があります



公共交通機関でお越しください

-  **地下鉄烏丸線**
 京都駅→(20分)→国際会館駅→京都バス40系統「京都産業大学ゆき」または50系統「市原ゆき」または52系統「市原經由貴船口・鞍馬・鞍馬温泉ゆき」(6分)→「地球研前」バス停下車すぐ
-  **京阪沿線**
 出町柳駅→叡山電鉄鞍馬線(18分)→京都精華大前駅→(徒歩10分)→地球研
-  **上賀茂方面より**
 ・京都バス32系統、34系統、35系統に乗り、「洛北病院前」バス停下車徒歩10分
 ・もしくは、上記に乗り「京都産業大学前」バス停下車、京都バス40系統「国際会館駅ゆき」に乗り換え、「地球研前」バス停下車すぐ





大学共同利用機関法人 人間文化研究機構

総合地球環境学研究所

〒 603-8047 京都市北区上賀茂本山 457 番地 4

TEL 075-707-2100 (代)

FAX 075-707-2106

<http://www.chikyu.ac.jp>

ISSN 2185-8047

発行 2013年 4月

